

R7 ティーaching・ポートフォリオ

山村学園短期大学 子ども学科

教授 高後 仁

1 教育の責任

令和7年度の担当科目

科目名	学期	対象学年	種別	受講者数	備考	
子ども学ゼミナールⅠ	後期	2年	演習	11名	1・2組 3・4組	
保育・教育課程論	前期	2年	講義	58名	1・2組 3・4組	
環境の指導法	前期	2年	演習	57名	1・2組 3・4組	
保育内容環境	前期	1年	演習	47名	1・2組	
教育原理	後期	2年	講義		1・2組 3・4組	
教育方法・技術論	後期	1年	講義		1・2組	
保育・教育実践演習（幼稚園）	後期	2年	演習		1・2組 3・4組	
SDGsと教育・保育	後期	1・2年	演習		1・2組 3・4組	
乳児小児救命法	集中	2年	演習		1・2組 3・4組	

授業の充実

- ・楽しく、身につく授業
学生の反応、提出資料の内容を根拠とした授業方法の改善
- ・学ぶ意義と現場での必要感が高まる授業
短大の学びと実際の保育・教育の関連の明確化
- ・コンプライアンスとアカウンタビリティへの意識が高まる授業
根拠法令等との関連、教育・保育を行う際の説明責任の重要性の伝達

研究活動の推進

- ・ 地域素材を保育に生かす研究の推進
- ・ 保幼小のスムーズな連携に関する研究の推進
- ・ SDGs と保育に関する研究の推進

地域貢献活動

- ・ 日本宇宙少年団さいたま支部 副支部長
- ・ 鳩山町放課後子ども教室運営委員
- ・ 鳩山町地域見守り支援ネットワーク代表者会議
- ・ さいたま市立公民館 主催講座講師（R7 3 講座予定）

2 教育の理念

学びたい子どもがいる、教えたい大人がいる、そこに学校ができる。学校は子どもにはもちろん、そこで働く教職員にも、保護者にも地域の方々にも楽しい場所でなければならない。これが私が30年以上かかわってきた初等教育における教育理念である。この理念を高等教育においても同様に掲げていきたい。学生は目的をもって本学を選択し、通学している。長年初等教育にかかわった経験と日々の研究、研修を活かし、学生の意欲に応え、質の高い楽しさを提供していきたい。

（1）学科長として

令和7年度、学科長を拝命した。学科目標を

- ①建学の精神「質実・英知・愛敬」を踏まえ、保育単科の短大として質の高い社会人・保育者の養成を実現する。高い理想を持ち、保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備えた保育者を輩出する。
- ②学生募集と進路指導を充実させ、入学定員の確保と、就職率100%に向けて努力する。保育への情熱と使命感をもって学生を育て、地域社会に貢献できる子ども学科を構築する。

とし、具体的には「個別の学修サポート計画を活用した、学生一人一人の自己実現に向けたサポート体制の一層の充実」「OC、高校進路ガイダンス等への組織的・計画的な取組、2年間を見通したキャリアアップセミナーと進路ガイダンスの連携等により、入口（学生募集）と出口（進路・就職活動）の一層の充実」「本学の特徴である体験的学びの質の向上（意図的・計画的な取組）により、保育者としての資質や専門性を一層向上させる」等により目標達成に努める。

（2）教務・FD委員長として

令和6年度より教務・FD委員長を務めている。今年度、教育課程の大きな変更点としてSBD（セルフブランディングデイ）の創設がある。令和7年度に入学した1年生より月曜日を自分自身のために使える日として、原則授業を計画しないこととした。SBDを意義ある時間とするために、教務・FD委員会を中心に、質と量を維持した上で月曜日に

授業を計画しないカリキュラムを編成した。今年度は新たなカリキュラムの実施1年目となるが、授業公開・FD研修会の充実、授業アンケートの活用を中心に、量の確保はもちろん、質の維持・向上に向けて組織的に取り組んでいく。

（3）授業担当者として

2017(平成29)年3月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂・告示され、平成30年4月から施行された。幼稚園だけでなく保育所、幼保連携型認定こども園とも幼児教育の一翼を担う施設として、教育に関わる側面のねらい及び内容に関して、前記3つの要領や指針の整合性が図られた。そして幼児教育において育みたい資質・能力が示されたこと、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が明確化されたこと等、多くの新たな方向性が示された。幼稚園教諭、保育士の養成を掲げる本学においては、改めて幼児教育の重要性を認識し、日々の授業の充実に努めなければならないと考える。

そこで、以下の3つの方策をもって本学の教育活動の充実に寄与し、自身の教育理念の実現に取り組んでいきたい。

《保育内容 「環境」の充実》

1人ひとりの子どもにとって環境は、

- ・地球環境、自然環境、生活環境、家庭環境といった「広い意味での環境」、
- ・保育環境、園庭環境、物的環境、人的環境そして環境構成といった「場所や空間、物や人としての環境」、
- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に5つの領域の一つとして位置づけられている「領域としての環境」

に大別できる。保育内容「環境」を指導する際に、「広い意味での環境」を子どもとともに意識し、「場所や空間、物や人としての環境」を整え、「領域としての環境」に示された内容を経験させることができる保育士の育成に努めたい。そのために、3つの要領や指針における環境の位置付けや、不足がちと言われる原体験、その中で本学の豊かな自然環境をどう生かしていくかを追究し、授業に反映させていく。

《小学校教育との円滑な接続に向けて》

「小1プロブレム」という言葉が使われるようになって久しい。平成元年度の小学校学習指導要領改訂で生活科が新設された根拠の一つにも上げられる。保幼小の連携、そして円滑な接続については前記した3つの要領や指針にも示されており、幼児教育の重要な課題の一つである。具体的な方法として、指導の工夫、児童と幼児の交流、教職員の連携・協力、アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムの作成・実施等があげられるが、私自身、初等教育において様々な事例を経験してきた。現状や考えられる対応に加え、私自身が経験してきた事例や効果的な方法を学生に伝えていきたい。その際に、保育者としてどのような対応が考えられるか、学生に考えさせる時間を確保し、そのうえで、具体的な事例、参考例を伝え学びを深める手続きとしたい。

《「SDGs と教育・保育」の充実》

一昨年度開講した「SDGs と教育・保育」。新規講座として2年の準備期間を経ての実施となった。内容は「基礎的な知識の学習」「地域の特徴・文化を体験する」「地球の現状を知る学習」「将来に生きる調査・研究」の4部構成で実施する。

SDGs を意識した保育は各地で実践されているが、その内容、方法は様々である。保育者自身が基本を学び納得する、現状を知り必要感をもつ、自身の生き方や保育に生きる工夫を研究する、といった展開を目指したい。

本講座の充実に向けて「SDGs に関する専門家の招聘」「地域の専門機関との連携」「学生の主体的な調査・研究時間の確保」を具体的な方策として実施していく。その中で、本学を選択した学生の多くが高い関心をもっている「自然環境の保全」に関する内容で多くの調査・研究を進めていきたい。また過去2年間で先輩が実践した調査・研究についても周知し、その継承も意識して取り組ませたい。

3 教育の方法

(1) 子ども学ゼミナールⅠ～地域素材の教材化に関する研究～

【ねらい】

クラスやゼミナールでの活動を通して、保育の専門的知識や技能、多様な教養を学習し、現代社会を取り巻く現状を捉える力を養う。さらに自らが職業人として必要な課題を見出し、分析や考察したことを他者へ表現する方法を学ぶ。その上で、主体性をもって多様な人々と協議して学ぶ態度を身に付け、保育者としての情熱と使命感を養う。

【到達目標】

ゼミナール等での活動に主体的に取り組み、得たい知識や技能を自発的に獲得できる。職業に対する求められる態度、マナー、コミュニケーションを理解し、行動に示せる。多用な体験や様々な他者との関わりを主体的に受け止め、肯定的、建設的に物事を捉え、体験や関わりを価値あるものにしようとする。

(2) 保育・教育課程論

【ねらい】

幼稚園及び保育所における、カリキュラムを理解し、実際のカリキュラムに沿って指導計画が作成できる保育者としての専門的な知識・技能を養う。

【到達目標】

ねらいを達成するために、各カリキュラムについて理解し、保育士・幼稚園教諭として資質の向上と子どもたちのために、カリキュラムからしっかり指導計画の作成ができるようにする。

（３）保育内容 環境の指導法

【ねらい】

領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもつて関り、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。

【到達目標】

幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。

（４）保育内容 環境

【ねらい】

幼児を取り巻くさまざまな環境や幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

【到達目標】

環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、身近な環境との関りを具体的な生活事例（製作・遊ぶ活動）を通して実際に行い体験的に学ぶことができる。

環境を、広い意味や保育内容「環境」としての意味を理解し、具体的な体験・経験のなかで身に付けていく。

環境とは、領域「環境」とは、環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解することができる。

（５）教育原理

【ねらい】

教育の目的や意義・方法等について学習し、保育士・幼稚園教諭として必要な基本的な知識や考え方を習得する。

【到達目標】

教育の意義・目的について理解する。学校教育の歴史と制度について理解する。教育の制度について理解する。教育実践のさまざまな取組について理解する。教育の現状と課題について理解する。

（６）教育方法・技術論

【ねらい】

幼児期の学びは子どもを主体として、環境や遊びなどの経験を通して育まれるものであるということを理解する。幼児教育の方法を多面的に論ずることができるための基礎知識を養う。

【到達目標】

様々な教育方法とその特徴を説明することができる。幼児期の特徴に応じた教育方法につ

いて説明できる。

（７）保育・教育実践演習（幼稚園）

【ねらい】

幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を把握する。

【到達目標】

学生が教員・保育者となるうえで、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を各自で図る。

（８）SDGs と教育・保育

【ねらい】

SDGs に関する知識や実践を学び、教育・保育の現場で生かせる実践方法を、自分たちで調査・研究し、構築することができる。

【到達目標】

SDGs の 17 の目標、観測データの大切さとそこから導かれる地球環境の現在を理解している。幼稚園や保育所をはじめ、様々な場で展開されている SDGs の実践をその意義も含めて理解している。研究の進め方を理解し、教育・保育で生かせる実践方法を獲得している。

（９）乳児小児救命法

【ねらい】

乳幼児の保育現場における事故防止と、万一の緊急時に医師や救急隊に引き継ぐまでの応急手当を習得する。

【到達目標】

全ての授業に出席することにより、希望者は L.S.F.A.-Childoren's（小児用 BLS プログラム）の「FIRSTAIDER with CPR Training Certificate」認定カードを申請し取得できる。認定を取得することで、L.S.F.A.本部より 2 年間にわたり訓練内容が証明される。

4 教育の成果、評価

令和 7 年度前期定期試験前に学生に対して授業アンケート（E d u N a v i）を実施。

問 1 ・欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。

・私語を慎んで授業を受けましたか。

・授業の要点を配布プリント等にとっていましたか。

・シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。

・予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。

問 2 ・授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。

- ・授業内容のレベルは適切でしたか。
 - ・授業の進度（速さ）は適切でしたか。
 - ・この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。
- 問 3
- ・教員の話し方は明瞭で聞き取りかったですか。
 - ・授業の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。
 - ・授業中の板書やプロジェクター（パワーポイント等）の利用は適切でしたか。
 - ・教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。
 - ・教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。
 - ・学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。
- 問 4
- ・全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。
- 問 5
- ・授業の感想を自由に述べてください。

（１）子ども学ゼミナールⅠ～地域素材の教材化に関する研究～

5. 0（満点）

問 1 平均 4. 2 問 2 平均 4. 4 問 3 平均 4. 4 問 4 平均 4. 4

問 5 自由記述

○草木染め自分でやったこと無かったので、ゼミを通して出来て嬉しかったです。

○地域素材を使っても色々なものに変えることが出来ると知りました。

○楽しかった。

○どんな様子か分からなかったから計画的にできなかった。みんなが自然と手伝ってくれて楽しかった。

（２）保育・教育課程論

5. 0（満点）

問 1 平均 4. 4 問 2 平均 4. 5 問 3 平均 4. 5 問 4 平均 4. 4

問 5 自由記述

○教育課程について多くのことを学びました。板書がわかりやすかった。

○保育園、幼稚園と小学校へのつながりをたくさん学んだ。（多数）

○自分の力で要点等まとめることでインプットとアウトプットがしやすいように思います。パワーポイントを活用した説明も分かりやすかったです。

○保育・教育に必要な知識を沢山学ぶことができました。実習を通し、授業の前後で学んだ事が納得でき、良い学びとなりました。

○保育に関連した教育内容をより詳しく調べ、これからの保育に活かせることがたくさんあり、いい学びになりました。

○書く量が多かった。

(3) 環境の指導法

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 5 問2 平均 4. 5 問3 平均 4. 5 問4 平均 4. 5

問5 自由記述

○野菜バーベキューでは、自分たちで植えた野菜というのもあり、普段よりも感謝の気持ちを込めて大切に食べようと思えました。笹舟やエコかるたも子どもに馴染みやすく、親しみをもって環境について学べると思いました。(多数)

○野菜バーベキューでは素の野菜の旨みや甘みを味わいながら美味しく食べることができた。役割分担をし、みんなで協力してバーベキューをすることができて楽しかった。エコカルタではイラストを描いてたのしみ、遊びながらも普段の生活を振り返るきっかけにもなったため良い機会だったと思う。笹舟では身近な自然物で子どもも大人も楽しめると感じたため、保育所やボランティア活動で実践の機会があれば挑戦してみたい。

○発砲スチロールヒコーキでは、紙の発砲スチロールを切ること自体初めてだったので新鮮でした。軽いから意外に飛んで丸みのある方が飛びました。エコカルタは、絵札の方に文字無かったのでいつものカルタより少し難しかったです。BBQは玉ねぎが1番美味しかったです。

○野菜バーベキュー・笹舟・エコカルタ・発砲スチロール飛行機など様々な活動を通して、机に向かって学ぶだけでなく、実際に自分達で作ったり、体験したり遊んでみることで気づきが出てきたり、子どもと関わる時に役立つことを多く学ぶことが出来た。

(4) 保育内容環境

5. 0 (満点)

問1 平均 4. 6 問2 平均 4. 4 問3 平均 4. 5 問4 平均 4. 5

問5 自由記述

○なぜそのような名前がついたのかがその植物の茎や花びらの色の変化葉っぱの形などから由来しているというのが、実際に見に行ってよくわかった。また名前の分からなかった鳥が鳴き声でわかるようになったのがとても嬉しかった。また、スケッチすることで細かい特徴を捉えることができて絵に表す楽しさも知ることが出来た。

○樹木や草花の観察に行き、名称の由来や意味、歴史などを知れた事が印象に残っています。そのおかげで普段から道を歩いている時などなんとなく草花や木を見てしまいます。教わった樹木や草花があると嬉しく思います。またデッサ

ンをする事でより細かく観察する事ができると感じました。(多数)

○9 回目の色々な遊びを体験した授業が 1 番楽しかったです。特に風船で遊んだことが印象に残っていて面白かったです。

○植物のスケッチは、普段そんなにじっくりと植物を観察することがなかったので授業を通して観察することが出来て良かったと思います。

○植物の特徴や色々な種類を学ぶ事が出来た。また、折り紙でアサガオやかえる等を作って楽しかった。虫の鳴き声や鳥の鳴き声をよく知らなく区別もできなかったが、授業で画像を見たり実際に声を聞いてみてわかるようになった事が 1 番嬉しいと思った。昔の遊びも体験してみて楽しく遊べて良かった。

○ハルジオンとヒメジョオンの違いを、子供たちにも伝えて行けるようにしたいです。

《以下は令和 6 年度後期実施授業アンケートより》

(5) 教育原理

問 1 平均 4. 5 問 2 平均 4. 6 問 3 平均 4. 6 問 4 平均 4. 4

問 5 自由記述

○教育の歴史、教育観の変遷等がよくわかった。

○出来事を年表にまとめた資料がわかりやすかった。

○知識の伝達だけでなく、学んだことを話し合い、一層深める場面があってもよいのではないか。

(6) 教育方法・技術論

問 1 平均 4. 0 問 2 平均 4. 3 問 3 平均 4. 4 問 4 平均 4. 3

問 5 自由記述

○保育の色々な方法がわかった。

○子どもの発達段階に応じた保育の方法、その時に気をつけるべき事等を知れた。

○授業の導入で自然についての話が興味深かった。もっと長く聞きたかった。

○書く量が多く、スライドのスピードが速い。

○書く時間を確保してもらえたので、無理なく学習を進めることができた。

(7) 保育・教育実践演習 (幼稚園)

問 1 平均 4. 4 問 2 平均 4. 5 問 3 平均 4. 5 問 4 平均 4. 4

問 5 自由記述

○グループで行っていく中で、今まで指示を待つ場面も多かったが率先して自分から行動を起こせるようになったと感じた。

- 壁面づくりやロールプレイなどグループの人と協力してできたのでよかった。
- 指導案の事前指導の徹底や、保育の連続性を意識した活動を考える指導があるとよい。

(8) SDGs と教育・保育

問1 平均 4.7 問2 平均 4.7 問3 平均 4.7 問4 平均 4.6
問5 自由記述

- SDGs については知っているようで知らないこともたくさんあった。自分たちで調べることによって多くの事を知ることができ、他のグループの発表からさらに多くの事を学べた。
- 色々な場所にでかけて学習ができたことがよかった。
- フードドライブの活動、クヌギ牧場の活動はぜひ今後も続けてほしい。

(9) 乳児小児救命法

問1 平均 4.9 問2 平均 5.0 問3 平均 5.0 問4 平均 5.0
問5 自由記述

- 先生の話もわかりやすく、とても勉強になる3日間だった。
- 使わないに越したことはないが、もしもの時には今回の授業の成果を発揮して対応したい。「私は手当の方法を勉強しているから安心してね」と声をかけて始めた。
- 救急救命についてたくさんの方が勉強できた。社会に出る直前のこの時期に学ぶのはとてもよいと思う。

5 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 子ども学ゼミナールⅠ

短期的目標	○「地域素材」の概念をより明確にすることが次年度に向けた改善の一つと考える。今年度、地域素材の解釈が「地域にある」「保育園・幼稚園にある」「身近な素材である」と広がりを見せたが、「地域素材とは何か」「保育現場等で活用できる素材とは何か」といった基礎となる概念を明確にすることで、現場で生きる研究・実践につなげていきたい。 ○研究・実践の成果をどのように活かしていくか、について議論を深める時間を確保する。自分たちで行った研究・実践はあくまで基礎研究である。それを保育・幼児研究の現場でどう活かしていくか、具体的な幼児の姿、組織やカリキュラムに基づいてどう実践していくか、議論を深め研究を進めることを本授業のゴールとしていきたい。
-------	---

長期的目標	○短期的目標で示した「地域素材の概念の明確化」「研究・実践のゴールの見直し」に加え、「研究・実践方法の広がり」を目標としたい。各自が研究・実践を進めるにあたり、その方法の多くは書籍、SNSに限られ、一元的な見方の中での研究であったと感じる。地域に出向き、専門家に聞き、場合によって現場で実践させていただく、といった方法を今後の授業の中で取り入れられないか、研究を進めたい。そのために、協力機関、人材等を集め、学生に紹介できるよう取り組んでいきたい。
-------	---

(2) 保育・教育課程論

短期的目標	○講義だけでなく、毎回プリントを作成し、記入・提出を求めることを継続してきた。特に提出されたプリントを翌週の授業で、評価したうえで返却することが効果的であった。今後一人ひとりに応じた評価、コメント等、学生がより達成感を味わえる評価方法を工夫していく。 ○半期の講義の前半は各カリキュラムの必要性や特徴の学習に、後半は子どもの姿を想定しながら、カリキュラムから指導計画を作成する学習を進めてきた。このシステムを継続することで、保育士・幼稚園教諭の資質の向上につながるものとする。 ○講義の速さ、パワーポイントの文字数、プリントへの記入量等を学生の声を生かし、改善するとともに、毎回授業開始時に前時の復習を行って来た。その成果は自由記述からも一定の成果が上がっているものとする。今後も学生の反応、意見を授業方法の改善に生かしていきたい。
長期的目標	○なぜ各カリキュラムの必要性や特徴を理解しなければならないか、それが幼稚園や保育所でどう役に立つのか、効果的に伝え、学ばせる方法を研究していく。 ○法令等や各幼稚園、保育所の方針等を遵守する中で、幼稚園教諭・保育士が自分の資質や感性をどう生かしていくか、指導計画の作成時間をより多く確保し、具体例を踏まえて伝えることで、学生の学ぶ意欲も高めていきたい。

(3) 環境の指導法

短期的目標	○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回の授業で評価し返却。その評価を楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。12回中出欠状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。
長期的目標	○「環境の指導法」。生活科の意図している内容は一部引き継ぐ。 ○領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。 ○幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。

（４）保育内容 環境

短期的目標	○保育内容環境に関しては、令和元年度子ども学科より始まった新設科目。体験型で実物に触れる貴重な科目。本学の豊かな自然環境が活かせる科目。 ○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回の授業で評価し返却。その評価を楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。15回中、節目に提出状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。 ○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。
-------	---

長期的目標	○Think globally Act locally “地球規模で考え、足元から行動せよ” “思索は世界的に、行動は足下をしっかりと固めて” というように解釈されている。 SDGs（持続可能な開発目標）にもあるように、「水問題」「フードロス」「プラスチックによる海洋汚染」等環境問題の認識は多種多様で世界の国々や人々によっても大きく異なる。自然環境は価値が高く大切に守るべきものであるが、時として人間の経済活動のために過剰に使われがちである。それは人間が環境に対する知識・意識・情報が薄いまま、行動・生活をしていることに起因する。それを改善・解決していくためには、一人ひとりが問題を認識し、情報などを共有して行動することが必要である。つい「自分一人が行動しても変わらない」と思いがちだが、一人ひとりが行動を起こし、学校や会社、地域コミュニケーションを図ることで改善に向けて前進することができる。資源・エネルギーは有限である。その認識をしっかりととらえ、“もったいない精神”を常に意識し、資源のリサイクル、エネルギーの節約に努めたいものである。
-------	---

《以下令和6年度後期授業アンケートに基づく改善に向けた目標》

（5）教育原理

短期的目標	○「協働的な学習場面」をより多く設定することを目標とする。知識の伝達や文言の理解に時間を割かれることが多いが、「なぜそのような概念や思想が生まれたのか」「なぜそのような制度が必要だったのか」等を話し合う時間を確保し、より深い理解への一助としたい。
長期的目標	○「個別最適な学習場面」「協働的な学習場面」のカリキュラムへの位置付けを長期的目標とする。協働的な学習場面については前記したが個別最適な学習場面の授業への取り入れ方についても研究を進め、両者を意図的・計画的にカリキュラムに位置付けていきたい。

（6）教育方法・技術論

短期的目標	○導入と学習内容の関連を一層深めることを目標とする。季節に応じた自然事象に関する情報提供を導入としており、学生からの評価も高い。本取組を継続すると共に、導入で提供した情報が保育・幼児教育にどのように反映されているか伝えることで、学習内容との関連を一層深め、学習効果がより高まるよう取り組んでいく。
-------	---

長期的目標	○「聞く」「書く」「考える」「調べる」等の活動毎の時間配分をより細やかに設定していくことを目標とする。学生によって「書く時間の設定」「聞く時間の設定」について評価が分かれた。個別最適な学習を意識し、適切なより時間配分を研究し、最終的に授業に反映させていく。
-------	--

(7) 保育・教育実践演習（幼稚園）

短期的目標	○自分自身の課題と不足している知識や技能を明文化する時間を確保することを目標とする。壁面制作、指導案作成、ロールプレイ、3つの活動を行い、その中で自身の課題や不足している点に気付いてもらう授業となるが、明文化することで気付きは実践につながっていくものと考えている。
長期的目標	○壁面制作、指導案作成、ロールプレイ、3つの活動に関する評価基準をより明確にする。実践を通して学生が自覚することが目標になっているが、それを支援、指導するための基準、根拠が明確であると一層具体的に、学生のこれからに生きる指導ができるものと考えている。

(8) SDGs と教育・保育

短期的目標	○「座学」、「体験」、「アクティブラーニング」のバランスのとれた授業構成を目標とする。学生から比較的高い評価を得ているのはこの3者のバランスが適切であることが要因と考える。従来から3者で活動を構成しているが、さらに学生の思いを具現化できるよう、その精度を高めていく。
長期的目標	○年度をまたいで取り組む活動を見出し、本授業の特徴の一つとすることを目標とする。自由記述にも記されているとおり、複数年にわたって取り組んでもらいたい事例が示されている。継続すべき内容を精査し、本授業・本学の特色ある教育活動に位置付けたい。

(9) 乳児小児救命法

短期的目標	○現在の内容、方法に常に最新の情報に更新して実践することを目標とする。救急救命の方法や考え方は、医療研究の進展や、現場や社会の状況から、常に更新されている。その情報を的確にとらえ、授業内容に反映していく。
-------	--

長期的目標	○救急救命について情報を細やかに収集し、学生にとって必要な内容を精査して実践していく。また、資格申請の方法についても適切な情報を学生に伝達していく。
-------	--

6 その他

(1) ナチュラル保育検定への取り組み

保育士や幼稚園教諭に必要なことは、知識や技術だけではない。物事に興味をもつこと、「知りたい」という子どもに負けない好奇心を持ち、命の大切さや生きる力を育てることが大切である。本学の緑豊かなキャンパスに生きる動植物等を学び、自然に関する知識やあそびに関する保育技術の習得のために、「ナチュラル保育検定」を実施している。

- ・令和元年度よりテキスト（冊子）と合わせてスマホ対応で検索できる方法を導入。
- ・令和7年度についても第1回ナチュラル保育検定を6月19日に実施。第2回は11月27日に実施予定
- ・テキストについては、令和5年度版よりSDGsの視点を取り入れ一部加筆。
- ・令和5年度より木本名札を設置。QRコードを添えることでより簡便にデータにアクセスできるようにし、保育検定でも活用。
- ・令和6年度より記述式問題「私の一推し」を实践。学生がお気に入りの自然物・事象を記載させている。
- ・実施しての課題の一つに、複数回受検しても合格しない学生への指導があった。今年度から学生が作成した答案を採点后返却することを取り入れ、実施している。



令和5年度テキスト

	名称 ファイアーサークル 知識 30年以上の歴史を持つ伝統的な火の祭りで、地域の文化や歴史を伝える役割を果たしている。また、火の祭りは、火の神様を祀ることで、火の安全や防火意識を高める効果がある。
	SDGsの観点 伝統文化の継承と地域の活性化、防災意識の向上。
☐	関連する事項 地域文化、防災意識
	名称 木本名札 知識 木本名札は、木製の板に木の葉や花のイラストを描き、木の葉や花の名前を記す。木の葉や花の名前を覚えておくことで、自然の観察力や記憶力を高める効果がある。
	SDGsの観点 自然環境の保全と持続可能な開発目標の達成。
☐	関連する事項 自然環境、持続可能な開発目標

加筆ページ



木本名札

(2) SDGs ワーキンググループ担当として

SDGs ワーキンググループ担当として以下の内容に取り組んできた。

① 敷地内の環境整備

ファイアーサークルの運用、プロムナード周辺の緑化、腐葉土事業の実施

植物名札の QR コード化、シイタケ栽培、スズメバチトラップの作成・実施

② 学生の自主活動の支援

環境整備委員会の取組（落ち葉回収、定期的な清掃活動の実施）

どんぐり銀行事業⇒クヌギ牧場開設

③ 授業の展開

「SDGs と教育・保育」に授業計画の共有、新たな活動（鳩山窯跡群に関する学びと体験）の開発、関係機関との連携

④ 地域貢献活動・啓発活動

山緑祭への出展、体験活動の実施

どんぐり銀行に関する取組については、同銀行の活動停止を受け、学内でのクヌギ牧場開設へと転換。今後、ワーキンググループでの検討を経て、各種事業の継続を予定。さらにニホンミツバチの養蜂事業、各種事業の学生への移譲の研究も進めており、可能な事業から実施していく計画である。

7 エビデンス一覧

- （1） 各科目シラバス（子ども学ゼミナールⅠ、保育・教育課程論、環境の指導法、保育内容環境、教育原理、教育方法・技術論、保育・教育実践演習（幼稚園）、SDGs と教育・保育、乳児小児救命法）
- （2） 授業時配布プリント
- （3） 試験問題
- （4） 成績集計結果
- （5） ナチュラル保育検定
- （6） SDGs ワーキンググループ検討内容報告